艮

艮は、古い字形が 、目と人との会意字です。「見（）」と反対の形ですので、後ろをふりかえって見ている形です。“ふりかえる”のが本義で、“立ち止まる”という意味に使われます。音は見（ケン）の変化したコンです。

限は、崖（阝）に“立ち止まる”という意味の艮とで、それ以上進まない、つまり、“ここまでとかぎる”ことを表わした字です。「極限」「制限」「限界」というように使います。音は見（ケン）が濁ってゲンです。

根は、“立ち止まる”という意味の艮と木とで、木がしっかりと立っている“もと”である“ね”を表わしたものです。木は“ね”によってしっかりと立っていられる訳です。木の最も大切な部分というので、「根本」は、“大切なもの”ということを意味します。根気。根性。音は艮（コン）です。

眼は、根の意味の艮と目との会意形声字です。目は単に目という物体を表現した文字ですが、眼は、見るという働きを持った目の内部構造までを含めた意味の“め”です。だから、目に見えない部分を含むことを艮によって表わしたのです。「眼力」は、単に目でなく、見る働きとしての目の力という意味です。眼識。眼光。心眼。

恨は、心の中に根をはったように、いつまでも忘れられない深い“うらみ”のことです。よくいう「根（ね）に持つ」「根に思う」という“うらみ”方です。「憾」は、一時的な感情で、その場限りであとに引かない“うらみ”です。「怨」は、仕返しをしたく思う“うらみ”です。「懟」は、お互いに“うらみ合っている”うらみです。「慍」は、だれという特定の相手のない“うらみ”です。

痕は、疒と艮との会意形声字です。木は切ってもあとに根が残るように、病気がなおっても、あとに残る“きず”あとを「痕」と言うのです。今では、病気やきずに関係なく、“あとに残ったもの”を言います。「人の住んでいた痕跡（セキ）もない」「墨痕（ボク）鮮か」

跟は、“足の根”という意味で、くびす（きびす＝かかと）を表わした字です。音は艮です。“人のかかとに続く”という意味で、“随行”の意味にも使います。跟随（ズイ）。跟従（ジュウ）。

銀は、“金に続く”という意味で、金に続く価値を特つ金属を表わした字です。金はこがね（黄金）、銀はしろがね（白金）、銅はあかがね（赤金）、鉄はくろがね（黒金）　と言います。